

議長定例記者会見 会見録

日時：平成25年10月21日10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

第2回三重県議会「政策セミナー」の開催について
みえ現場 de 県議会「子ども子育て支援」の開催について

2 質疑項目

第2回三重県議会「政策セミナー」の開催について
みえ現場 de 県議会「子ども子育て支援」の開催について
「通年議会の充実」のための議員アンケートについて
選挙区と定数の見直しについて
「通年議会の充実」のための議員アンケートについて
台湾との交流について
第2回三重県議会「政策セミナー」の開催について
「通年議会の充実」のための議員アンケートについて
原子力発電所の再稼働について
ブラジルとの交流について
選挙区と定数の見直しについて

1 発表事項

第2回三重県議会「政策セミナー」の開催について
(議長)ただ今から、10月の議長定例記者会見を開会いたします。
まず始めに、第2回三重県議会「政策セミナー」の開催について発表させていただきます。お手元の資料をご覧ください。
本年度2回目となります「政策セミナー」につきましては、11月6日の午後1時から、全員協議会室で開催いたします。今回は、NPO法人天満浦百人会の松井まつみ副理事長をお招きし、過疎、そしてまた高齢化が進む尾鷲市において、行政の補助金に頼らずに、地域を元気にするイベントを始め、地域の農林水産物の生産増大、環境整備、地域づくりの担い手育成など多岐に渡る取り組みにより、地域づくりを進めてこられた経験などについてお話をいただくことにしております。なお、ご講演いただいた後に、議員との意見交換も予定をいたしております。今回のセミナーを通して、本県における地域づくりなどの議論を活発化させていきたいと考えております。

みえ現場 de 県議会「子ども子育て支援」の開催について

(議長)次に、みえ現場de県議会「子ども子育て支援」の開催について、先月に引き続き発表させていただきます。具体的な内容につきましては、広聴広報会議座長である前田副議長から説明をさせていただきます。

(副議長)お手元の資料の発表事項2の資料をご覧いただきたいと思います。「みえ現場 de 県議会」につきましては、今年度も2回開催させていただく予定でございますが、このうち「子ども子育て支援」をテーマにした会議につきまして、資料のとおり、10月27日の日曜日に、松阪市にあります「三重県立みえこどもの城」で開催をさせていただくこととなりました。

当日は、小学校低学年までの子どもさんがいる子育て中の方、9人と、子ども子育て支援に関わる方、5人の方にご参加をいただき、子育て家庭が置かれている現状や抱えている課題などについて、三重県議会議員と意見交換させていただきます。予定でございます。

なお、一般の方につきましても、20人程度でございますが、傍聴が可能な状況でございますので、ぜひとも報道機関の皆様方におかれましては、事前の情報発信や当日の取材について、ご理解・ご協力賜りますことをお願い申し上げます。私からは以上でございます。

2 質疑応答

第2回三重県議会「政策セミナー」の開催について

(質問)この10年くらい、東紀州に向ける三重県政の目の向け方というか、そういったことについて県議会からはどのように、もっとこうせなあかんとか、道路だけ作ったらええやないとかですね、そういったご意見があればお伺いしたいんですが。

(議長)今の2点に関して、もしくは関連してという質問でしたか。

(質問)関連してですが、東紀州の方にですね、県政がどのように、過疎・高齢化が進んでいますけれども、県のここ10年の東紀州方面に対する施策についてですね、何か県議会の方からもうちょっとこうしてほしいというご意見というのは、個人的な意見で結構ですから、お願いしたいんですが。

(議長)特に東紀州におきましては、過疎化は現実的には進んでおりまして、それに対処をして、尾鷲、そしてまた熊野地域の地元の議員さん方々も大変いろいろそういう面では心配をして、議会の中でもいろいろ質問があるごとに発言をしていただいておりますけれども、特に県の行政の中では、南部地域活性

化局、局を設けて一般的な北勢・中勢・南勢というような、こういうところから、局を設けて重点的に過疎化、そしてまた東紀州の問題等について具体的に検討していこうと、そしてまた力を入れてやっていこうと、こういうことで県の中ではそういう方向で進んでおりますが、議会は議会の中を通じて、いろいろ本会議等でもいろいろ意見を出ささせていただきながら、少しでもそういう中で当局にその要望とか、施策の推進というのを意見を出していただいているという、こういう形でございますが、私ども県議会の中でも、できたら今回、このテーマを取り上げましたのも、特に講師をお願いいたしましたNPO法人の天満浦百人会の松井副理事長は、過疎・高齢化が進む尾鷲市の天満浦地域において、行政に頼らない地域づくりを進めておられるということでは、南部地域の活性化モデルとして、また、地域づくりの県内先進事例として長年にわたる地元で根差した経験から得られた、こんな方でございますので、貴重なご意見を県議会の中でいろいろ共有をしていきながら、行政のやるべき使命と、そしてまた地域の中で私的にやっていただく使命、こんなところもこの方の講師のお話をお聞きをしながら新しいテーマができればなど、こんな思いで今回選定をさせていただきました。いずれにいたしましても、今、県議会の中ではとにかく重点的に南部地域の問題等については取り組まさせていただきます、ということでございます。

(質問) さらに関連なんですけれども、天満浦自体も津波の被害が想定される所ではありますが、防災面でも少し聞いてみたいという質問とか考えていらっしゃるでしょうか。地域づくりということでお話を伺うということですのでけれども、いかがでしょうか。

(議長) 今はそこまで具体的に講師の方がどこまでということで、話のところはまだちょっと詰めておりませんが、主に過疎と高齢化が進む天満浦の地域に対して、地域づくりをどのように進めておられるかと、こういう形である程度お話があるのではないかなと。その中には、すでに活動してみえる夢古道おわせのランチバイキング運営とか、カフェ天満荘の運営、それからひな祭りなどの各種イベント、高齢者の見守り活動の配食等もやっていますので、防災についてはまだ具体的にはちょっとお聞きしておりませんが、おそらく意見交換の中には、そういうお話も出していただいて、より深めていければいいんじゃないかなと思っています。

みえ現場 de 県議会「子ども子育て支援」の開催について

(質問) 前田副議長に質問させていただきますけれども、三重県政の方で来年を子育て元年という位置づけで、特に少子高齢化、少子化対策ということで予

算をつけてということなんですけれども、「みえ現場 de 県議会」の中でどういった県民の声を吸い上げることが県政運営に役立っていくと思われるでしょうか。

(副議長) 個人的な所見も含めながらではございますが、やはり少子高齢化という時代の急速な進展の中で、少子化対策というのは県政の重要な課題だとも認識しております。いろんなこれまでも諸施策を展開してくる中で、なかなか即効性も厳しく、実効性もなかなか上がらないという中で、やはり県民の皆さんの声を直接聞かせていただくことで、行政として何ができるのか、しなければいけないのか、そういった制度矛盾的な部分も含めながら、いろんな生の声を聞かせていただいて、県議会として施策に反映していければなど、そんな思いで今回公募もさせていただき、そしてまた、日頃、そういう子育て支援に関わっていただいている、苦勞いただいている方の5名に出席いただく中で、専門的な声もいろいろと制度設計の中に生かしていければという思いで、今回企画をさせていただいているところでございます。

(質問) そういったご意見の集約という形で、今後、常任委員会に上げていくとか、そういうおつもりはあるでしょうか。

(副議長) はい。当日3常任委員長にも出席をしていただきまして、常任委員長が都合が悪ければ副委員長に出席をいただきながら、現在の県政としての取り組み状況の報告も少し前段に報告もさせていただきながら、より参加いただく方に生の声を聞かせていただきやすい状況を作りながら、いろんな声を聞かせていただいて、その声を常任委員会の議論に生かしていきたいなど。基本は常任委員会の議論の中に反映をしていきたいと思っております。

「通年議会の充実」のための議員アンケートについて

(質問) 先日、通年議会の議員アンケートの件が報告されたと思うんですけれども、内容を拝見すると、評価する声がなかなか高いかと思うんですけれども、アンケートに対する議長の見解と感想とです。このアンケート、いろんな課題があったかと思うんですけれども、それについて今後どうしていくか。最後に、通年議会に対する今後の方向性を教えてください。

(議長) 1月17日から通年議会が行われることになりまして、私としても、できれば1年間やって、それ以降どうするかと、こういうこともあれですけれども、できれば一つ途中からアンケートを取らせていただいて、少しでも充実した通年議会にしていきたい、こういう思いもございまして、先般アンケート

を、議事運営全般について様々な観点からご意見をいただき、議員アンケートを取らせていただきました。評価的には、通年議会に効果ということで72%くらいは効果があると、こういう形で議員の皆さん方から評価をいただいた反面、まだまだ厳しい意見等もあるわけでございますけれども、できればこのいただいた意見、先般、代表者会議の中で一応ざくっとまとめたアンケートの結果は出させていいただきてきましたが、それを1回各会派に持ち帰っていただき、できれば全般的にご意見をいただければということで、再度また早い時期に、各会派の意向等についてまとめたやつをいただくことで、それをまとめさせていただきますして、できれば私ども、早い時期にそのまとめた案について代表者会議にお示しをさせていただきます、できればそれに基づいて、取扱い、それからまた、決定等もご協議をいただきたい、こんな考え方をしております。通年議会につきましては、新聞等でも細かく報道をしていただいておりますけれども、議員の立場からでは、少し地域の議会活動の時間がさかれるというこんな意見等もございますし、その他、委員会等で、例えば、常任委員会あたりをもうちょっと改善してはどうかとか、それから、議員間討議の充実あたりでも少しこんなところについて加えたらどうやという、いろいろ貴重なご意見をいただいておりますので、早い時期にまとめさせていただきますながら、時機を逸しない形の中で代表者会議等に出させていただきますと思っています。

(質問)今は個人のアンケートだけれども、要するに、近々、会派としての意見なり、改善点をまとめていくということによろしいでしょうか。

(議長)はい。

(質問)評価が7割くらいあった、議長の率直な感想はいかがでしょう。

(議長)直接的にはまだ3月の法改正あたりのときの専決処分について、通年議会は開かれているということで効果があったという面と、それからまだまだ実感的に何も感じなくて、あんまり効果がないなという、こういう表現の方もおみえになりましたものですから、いろいろな細かい意見等については参考にさせていただきますながら、先取りをした形の中で、この通年議会の充実をやっていきたいと思っています。

選挙区と定数の見直しについて

(質問)選挙区等、定数見直し進んでいますけれども、総定数の51について増やすべきか、減らすべきか、現状維持か、議長のお考えをお願いします。

(議長) これは選挙区調査特別委員会を今年の1月17日設置をさせていただいて、いろいろ論議をしていただいておりますが、なかなか私の方から現行の51を減らせとかということについては、ちょっと控えさせていただきたいと思えますけれども、9月6日の特別委員会の状況のところでは、1票の格差の是正を基本に定数の削減や選挙区の見直しの検討を行うという合意くらいはされたそうでございますし、それを基にして10月1日には正副委員長が論点を提示するというので5項目くらい論点を提示をしていただきました。それを今、各会派のところでも少し検討していただいておりますし、10月28日の委員会くらいでは、12月の中旬には中間案を出す必要がございますので、10月28日の委員会くらいにはおそらく論点でありました5つを中心にしていただきながら、まとめていただくような方向で、進んでいくんじゃないかと、こうやって思っておりますが、私の方から特にこの51を減らせとか、増やせとかということについては、まだまだ各派だいが温度差がございますので、差し控えていきたいと思えます。

「通年議会の充実」のための議員アンケートについて

(質問) 県議会のアンケートに関しての関連の質問なんですけども、どうしてもやっぱり選挙区を回る時間がなかなか取りづらいつかですね、あるいはそれで回っているとそれこそ自分の休みが取れないということで、たとえ少数意見であってもそれはちょっと捨て置けない意見だろうという、まさにそう思うんですが、その辺りどのように工夫していかれる予定でしょうか。

(議長) 地域活動の時間が最近特に縛られる関係で少なくなってきたと、こういう意見は一部ございます。今言われましたように本当に貴重な意見でございますので、それを少し工夫してでもそういう時間を作っていくかいかかと、こういう思いはさせていただいておりますが、会期も1年で338日くらいございますので、会期中で休会の時期もあるわけでございますけども、何らかの形でまとめてそんな期間を設けるのかどうかも含めて、これもまとめていただいたら、検討会の中で、いろいろ検討をしていただくということになるかと思えますけども、私はできれば、そんなところがこれから議員の皆様方の切実な要望になってくる可能性もございますので、何らかの検討、また具申ぐらいしていきたいと思えます。

台湾との交流について

(質問) 今日、三重県と台湾・新北市との協定が結ばれるかと思うんですけれども、台湾との交流ということであると、議会が早くから取り組まれていたこともきっかけになっているかと思うんですが、その辺りをふまえて今日この協

定が結ばれますことと、それから今後こういうふうになっていけばというのがあればお願いします。

(議長)そうですね、議会の方が特に台湾の三重市ですか、5年ぐらい前に新北市と合併されましたんですけど、その前の三重市ですか、いろいろな交流をやっていただいております、5年ぐらいになるわけですけども、そういう面で台湾との交流がこの行政も通じて、行政も一緒にこんな形で進んできたということですし、日台サミットも先般は賢島の方ですか、あちらの方で行われて大変活発になってまいりました。そういう面からするといろいろな海外との姉妹提携とかやられておるわけでございますが、治安も安定をして近い台湾との提携というのは本当に喜ばしいことではなからうかなと、こうやって思っておりますし、より交流も深まってきたようでございますし、今後とも議会としても後押しを、バックアップをやっていきたいなと思っております。特に今三重県は海外との交流というのも、中国もございまして、それからタイもございまして、それからヨーロッパも、そしてブラジルも、それからアメリカもということだ、いぶん広がってまいりましたけれど、前回にもちょっとお話しさせていただきましたように、中心的にこれからやっていくところと、それからこれからのところとか、仕分けをしながらあまり裾野を広げすぎることについては少しどうかと、こうやって思っております。知事の方からそういう面では絞った形でのこれからの交流というのを提案されておりますので、そういう面からすると台湾というのは一番近くて国柄もよく似るということとでございますので、よりいっそうこれから交流が深めていければいいなと。今日の調印式というのは大変私どもとしても注目をしておりますし、先般、4日前ですか、いろいろ地元のこの博覧会っていうんですかね、そんなところへも議員もたいへんお邪魔をさせていただいておりますので、よりこれから交流が深まっていくんじゃないかなと、こうやって思っております。

- 第二記者クラブも含めてご自由に発言をお願いします。 -

第2回三重県議会「政策セミナー」の開催について

(質問)振り出しに戻って恐縮ですが、この「政策セミナー」で今回の松井さんに決められたのは、尾鷲周辺の県議の方のご推薦とか何かそういうことなんですか。例えば町おこし云々ならば、「宇気郷」とかそういう所もありますけれども、そういういろいろ候補はあったと思うんですが、その中で特にこの松井さんの所に決められたというのは。

(議長)今回「トップセミナー」から「政策セミナー」へ変えさせていただいたということとございますが、県議会としてはやっぱり真に県民の負託に応え

ていくためには地域で活動されている方々の意見というのを、これを吸い上げさせていただきながら、より現場の感覚で、より県民の視点から、今後議会の中でも政策論議をさせていただきたいということで、今回「政策セミナー」ということで変えさせていただきました。これは前回にもお話しさせていただきました。講師には、今回いろいろ私どもとしても期の初めに6人ほど選ばせていただきました。その中で、特にこの「政策セミナー」の主旨に合致していただく方を、日程調整とか、それからお受けしていただく意思もおありかということも確認をさせていただきながら、南部地域の人からご推薦をいただいたということではなしに、今回の「政策セミナー」の主旨に沿って、地域の中で活動をしておみえになる、特に自主的に地域づくりをやっていただいているということでは、議員としてもたいへん勉強になるのではないかなと、こんな思いをさせていただいて、今回長年に渡り地元で根ざした経験をやられたNPO法人の「天満浦百人会」の松井さんをお願いしたと、こういうことでございます。

「通年議会の充実」のための議員アンケートについて

(質問) 議員アンケートですけど、概ね7割が今の通年制になって良かったという話なんですけど、これ3分の2だから逆に過半数超えてるんで、それはそれ全体として良しとせざるを得ない部分もあると思うんですけど、ただ中には委員会がタイトであるという、そういう意見等もあったみたいで、かつては常任委員会も1日、2委員会だったじゃないですか。それがこの通年になる前あたりから1日に3常任委員会という形で固めてきてるんですけど、逆に言ったら少数会派等はもともと会派委員数が少ないので、常任委員会全てに傍聴できないと。まあ1つは委員会常任委員として入っていても、あと2委員会についてはそこまで人を出す余裕がないという、そういう不満があると思うんですけど、その辺委員会日程等を含めて少しタイトさを改善したいということを議長は仰ったみたいですが、その辺はどういうふうにされるわけですか。

(議長) 委員会の開催の日程については、確かに日程もたくさんある反面、議員の皆さん方からすると、日程的には傍聴等も容易になってくるということで、できるということではメリットがでてきたなと、こういう思いもさせていただいておりますけども、委員会のこれからいろいろ充実とか、それからもうちょっと余裕を持ってやるとかという面からすると、もう少し委員会の日程等についても考えていかなあかなと、こういう思いは持っているわけですが、まだまだ意見等も出していただいたばかりでございますので、これからいろいろ集約させていただきながらまとめていきたいなと思っています。

原子力発電所の再稼働について

(質問)この間の臨時国会が召集されてですね、安倍首相の所信表明演説等がありました。福島第一原発に関しては、汚染水を確実にブロックすることと、そのための措置というのは国が前面に立ってやるというふうなことを改めて言われたわけですが、それに関連して中部電力の浜岡原発が知事のところへ改修工事の中身であるとかそういうことを伝えて、それが完成して原子力規制委員会の審議を通れば再稼働したいということをやっているんですけど、そういう意向を示されているんですが、その辺について県議会としてどうか、議長個人でも結構ですけども、お考えがあれば。

(議長)先月に中部電力さんが県庁の方に来られて、原子力規制委員会の新基準への適合性ということでいろいろ対処をして申請ができるように準備を進めていく、こんなお話もお聞きをさせていただきましたし、私どもの議会の方へもそんなお話もお聞きをさせていただいて私としても存じておりますけれども、現時点、知事の方はいろいろご意見があるかも知りませんが、現時点で私ども県会として国の安倍総理はいろいろ発言をしてみえますし、小泉元総理もいろいろ発言をしておみえになりますけれども、私どもとしては、議会としては現時点で再稼働はどうかと、こういうことについてはちょっと差し控えたいなと、こうやって思っております。やっぱり浜岡原発につきましては地域の議会なり、それから県の考え方もいろいろあるかと思っておりますので、そんなところが重要な論点と言うんですか、再稼働するというんですか、それに向けての大きなインパクトに繋がっていくんじゃないかなとこうやって思っております。

(質問)副議長もそれでよろしいですか。土曜日の何か民主党の幹事会では一応岡田さんは小泉発言等をむしろ是認するようなことを言われているみたいなんですが、民主党系色の強い新政みえさんとしていいんですか。

(副議長)基本は議長と同じでございます。

(質問)そこに従う。それは母体が中部電力さんだから言いにくい面もあるとか。

(副議長)副議長の立場で今日は参加をさせていただいておりますので、ご理解をいただければと思います。

ブラジルとの交流について

(質問)ブラジル一行、この前、県人会が来県されましたけれども、改めて、

今後のブラジルとの交流、さっき若干ふれられた部分もありますが、いかがですか。来られてレセプションされたわけなので、その辺の感想を含めて。

(議長)この度、私どもは8月16日からブラジル・サンパウロ州の姉妹提携40周年ということで、ブラジルの方に訪問団66名で参加をさせていただきました。サンパウロ州の方、そしてまた市の方へも訪問させていただきました。議会の方では、前回もお話しさせていただきましたように、サンパウロ州議会、それからサンパウロ市議会、両方を訪問させていただいて、本会議場でたまたま両議会が開かれていましたから、ご挨拶をさせていただける機会もございました。その後、サンパウロ州とは今まで姉妹提携ということで進んできましたけど、今回、共同宣言ということで、ちょっと踏み込んで経済交流を含めてやっていこうということで、調印をさせていただきました。ブラジルとサンパウロと、それから三重県の新たな時代を迎えていると、こういうことを肌を感じさせていただきました。先般、10月、ブラジルから三重県訪問団が来ていただくことになりました。早速、西本エリオ サンパウロ州議会議員、そして野村アウレーリオ サンパウロ市議会議員が、ブラジルの経済状況と今後どのような状況になっていくかという面で、経済セミナーをやっていただき、参加された方にお聞きをいたしますと、大変有意義な話を聞かせていただいたと、こういうことでございます。それと合わせて、私ども8月に訪問した時に、ビザの問題を大変向こうの方から懇願をされました。ビザ免除の申請を特に痛感してきましたものですから、知事は帰られて2日後に外務大臣の方に査証免除の話を持って行かれました。私どもは議会でございますので、議会で今般、免除協定の早期締結と短期査証免除の実現に向けた意見書、これをまとめさせていただいて、全会一致で可決していただいたものですから、できれば、私も早い時期に、今、日程調整をしておるわけですが、今月末くらいには、最低でも外務副大臣、地元の方もおみえになりますので、副大臣くらいには直接お会いして、ビザ問題について直接意見書を提出したいなと、こんな思いをさせていただいております。いずれにいたしましても、大変遠い、地球の裏側ではございますけども、今回の交流で多くの人脈もできてまいりましたから、今後は、新しい友好では、大いに期待をいたしたいと思えますし、議会の方としても十分バックアップをしていきたいなと、こんな思いでございます。

(質問)対ブラジルで、日台議員連盟みたいなものはありましたっけ。

(議長)日伯議員連盟というのはございますけど、全員参加をしていただいております。中嶋年規議員が会長をしていただいております。

(質問)ということは、ここを中心に、定期的な行き来っていうのをやるとか、そういうお考えはありますか。

(議長)今はちょっと熱くなっておりますので、そんな思いの方がたくさんおみえになるんじゃないかと思えますけれども、いずれにいたしましても、知事部局の方はそれなりのことを考えておられるかもわかりませんが、議会の方としては、できたら議員連盟を中心にさせていただきながら、先般もお話させていただきましたように、全然活動しないということではなしに、何らかの形の中で、予定っていうんですか、そんな検討をしていただくような形にお話をしていきたいなと思います。特に中嶋会長は、大変、今、力を入れられて、いろいろお考えを持っておみえになるかもわかりませんが、そんなところにご期待をしたいなと。

選挙区と定数の見直しについて

(質問)選挙区調査ですけど、総定数51を言う立場にないということと、委員会に任してるんでという立場は分かりますが、ただし、もともと平成15年県議選に向けて当時の調査特別委員会が結果を出した時に附帯意見が付いてて、そのもっと前ですね、11年の時ですね、11年の県議選に向けて作った時に、その時の特別委員会報告で、15年の県議選ではある程度見直すという形できて、それで通算12年、15年とすれば10年ですけども、その間ずっと定数はいじられないできてるわけですね。この県民にある程度意思を示したことに対して、実際問題守られていないということについては、どのようにお考えですか。見直すというのは、別に51を減らすっていう意味でもあるし、あるいは増やすっていう意味でもあったかもしれないけれども。

(議長)平成15年に実施された時には、平成12年に見直しをされたと思うんですけども、12年の改正では人口割の実定数に対して地域間の均衡を考慮して、特に都市部の4選挙区、いわゆる津と四日市と松阪と鈴鹿、これについては1ずつマイナスをしていこうと。そして、郡部を中心にした4選挙区、尾鷲・北牟婁郡、熊野・南牟婁郡、多気郡、度会郡については、各1プラスして選挙区の定数を決定したと、こういう経過があるわけですね。その辺のところから経過をしていって、もう既に15年で、今度は27年になるわけですかね。ですから、何らかのことについては結論を出していかないかと私も思っておりますけども、それが減らすとか、増やすとかというのは、私も個人的には思いをいろいろ持っていますけど、選挙区調査特別委員会でいろいろ論議をさせていただいておりますので、私からは、思いは持っているわけですけど、過去のいろいろな流れからいきますと、やっぱり差し控えさせていただきたいなと思

っております。

(質問)特にその中で、自民みらいが抵抗勢力になっている部分がありますが、その辺は、会派に所属されてるんで、会派の中の意見等で、会合等で、何かご意見を言われてないんですか。いくら何でもこれだけばらばらではまずいだろうとか、もう一つまとまった意見を出そうよ、他会派にも迷惑をかけてるしとか。

(議長)その辺のところは2、3回、お話をさせていただきましたけども、個人の問題を持っておみえになる方もおみえになりますので、どうしてもそんなご意見が特に前面にいろいろ出てきて論議をしていくという形になっておりますので、なかなか一つの意見にまとめていくというのが、今のところ見ると難しいかなと。ある面では時間をかけなけりゃ、なかなか結論が出ないかなという思いもさせていただいておるんですけども。ですけども、ある時期にはやっぱり結論を出していただきたいなと思いますので、今回5項目の検討課題もございましたけど、十分論議をして、とにかく1回、12月末ぐらいまでには、方向付けをやっていきたいのでよろしく申し上げますと、こういうお話をさせていただいています。

(質問)ということは、今のお話を総合すると、28日の委員会でも、ある意味先送りになる可能性もあるってということですよ。要は、自民内でまだまとまってるか、まとまってないのか、その状況次第ってということですよ。

(議長)まとまっていないということですけど、それは途中の過程でございますので、時期がきたら当然まとめていただかないかということでございますし、12月には中間案を出すというスケジュールも出てきておりますので、今は、ある面では佳境の時期でございますので、ある時期にはまとめていかざるを得ん、それは私も強く言っていきたいなと思っております。

(質問)観点を違えてですね、ひとつお聞きしたいんですけど、議長個人のお考えでもいいんですが、本来的に選挙区調査、定数も含めてっていうのは、議員の身分に関わるだけに、人事案件と同じように個人の利益、不利益に関わる部分がありますので、そこを当事者で話し合うっていうこと自身が若干矛盾をきたすじゃないですか。他のところは給与を含めて第三者委員会を作ってやってるわけですから、逆に言ったら、最終的にそれを受ける、受けないは別にして、第三者的な機関を作って、そこで選挙区と定数っていうのを、とりあえず案として出してもらおうというやり方もあると思うんですけど、その辺について

は与されないですか。

(議長) 選挙区調査特別委員会が発足したのが1月17日でございますので、私は5月16日から就任させていただきましたので、今の方向はそのままいかざるを得んと思っておりますが、国の方でも特別委員会を設けてやっておみえになりますので、県議会も思い切った方策を取るならば、今言われた方向もひとつの方向ではなかろうかなと思っております。いずれにいたしましても、今は、現特別委員会がございますので、そのような方向で、とにかくまとめていただくということで論議して欲しいなと思っております。

(質問) 現行はもう致し方ないにしても、次の27年以降、今後の三重県議会ということをお考えになった時に、議長がいつまで議員をやられるかわかりませんが、今後のことを考えた時にはいかがですか。

(議長) 私がいつまでやっているかわかりませんのであれですけど、それもひとつの方策かもわかりませんね。

(以 上) 11時17分 終了